

第16回国土管理専門委員会の主な御意見

令和2年8月5日

第16回国土管理専門委員会での委員等からの主な御意見

議事（1）宅地を中心とした地域で、中長期的に土地利用の問題が深刻化するおそれのある地域の管理構想について

NO.	要旨
1	管理構想の策定というのをいきなり目標にするのではなくて、少しステップを区切って、最初はとにかくみんなで現状を把握しようというところからスタートするという考え方が重要ではないか。 また、前から議論になっているように市町村とは別の 中間支援組織 のような行政以外の団体の支援が必要。（広田委員）
2	A・B地区と言うのは同じ時期に開発されたので同じ世代が入っており、自治会機能がとても人工的である。そのため、機能が廃れるのも急速的に早いのではないかと思う。 現時点では問題はないというが、A・B地区のような場所も予防的に考える必要が十分あるのではないか （土屋委員）
3	「新住民旧住民」の課題は重要なところ。全国的に起きておりより深刻になると思う。地域管理構想を作る時に旧住民の意見ばかりの管理構想であれば新住民はなかなか反映されなくなるだろうし、 どうやってまとまりを作ることはできるのかの方法論は大事であり、中間組織は新旧住民をつなぐ役割を担える可能性があるのではないか。 （大原委員）
4	中条の事例で出てきたような、土地の解析をしていくことも何らかの応援が必要だと感じる。 自主的にやっていくというのは結構つらいところで、 ただ現状を把握するだけでは、結局、うまくいっていないということが分かるだけで、どうするというアクションプランに結びついていけないのではないか。 省庁縦割りで検討すると、地方や自治体で類似の計画をいくつも作ることになりがちであるが、しっかりと横串を刺して連携すべき。 本当は、環境の問題であれ、防災の問題であれ、様々な問題が実は結びついていて、それを横串を刺した形できちんと基礎データがまとめられて、色々なものに応用できるような、そういうシステムであるべき。 （中村先生）
5	過去に様々な法定計画の比較調査を行った際に気付いたことは、 策定のプロセスを丁寧に行った計画ほど実行されるということ。 環境基本計画は住民も交えながら懇談会を行ったので達成できていた。もう1つはデータの重要性。 その計画を作るに当たって提供される基礎データ、作る際に収集できるデータがよく整理されているといい計画になる。 住民参加のプロセスとデータが大事であった。（広田委員）
6	オリジナリティーといいますが、なぜこれを使わなければならないのかということをもう少し明確にすべき。 地域の管理構想と、既存の様々な計画や地域の課題解決一般の違いが、地目横断的とか複合的とか、多様な土地利用というところにあるのだとすると、そこいけばターゲットはかなり絞られているような気がする。そういった 独自の意義やそれに応じたシステムというものを打ち出すべき （飯島委員）
7	必要性が比較的低いといっている地域でも地域住民にとっては必要性が高いと考える地域もあると思われる。ただ、 国土政策の面、スケール的な問題としては団地としてできているところに国土管理的な手当てを施す必要性は低いと言ってもいいのかもしれない。 そう考えると市町村全体のマクロ的な影響の度合いで、宅地を中心とした地域から農地を中心とした地域に行くほど深刻になると考えてもいいのかもしれない。 それから、インセンティブの話があったが、 都市部でも地域管理構想と言わなくても土地の状況を把握して、それをGISに落として活用して色々やっている、といった事例を提示することによって地域管理構想の必要性をしっかりと訴えていくことが大事。 （瀬田委員）
8	国土管理ということを考えると、その地域の問題がほかの地域など広域に波及するのかが重要。 例えば災害や景観など、ほかにも連担して悪影響が移っていくようなことが危険なので、やはりそこは国土政策として必要性が高いといえるのではないか。（一ノ瀬委員）

第16回国土管理専門委員会での委員等からの主な御意見

議事（2）2020年とりまとめに向けて

NO.	要旨
1	地域管理構想といえば自然と空間の話が入ってくるというイメージが湧きやすいので良いが、 <u>管理構想全体やほかのレベル、スケールの管理構想もあるとしたときに、やはり全体として「土地」とか「空間」とかという言葉は入れるべきではないか</u> （瀬田委員）
2	管理構想の指針について <u>どういう時間軸で計画を考えるのか明示する必要があるのではないか</u> 。また、 <u>全国一律に地域管理構想を作ろうというよりは、地目がまたがっている場所など重点的に作っていくことが予防的にも重要な場所を整理してしっかりと示すべき</u> （大原委員）
3	そもそもなんで管理構想が必要だという時になし崩し的に状況が進むことがマズいということが前提にあった。 <u>計画的に対処することの必要性の視点が目的としての視点で欠落している</u> 。 <u>保険的な対応というような、分からない中でどう考えるかというところが非常に重要</u> 。今回の管理構想の中でも、グッドプラクティスだけじゃなくて、様々なシナリオを想定しようというのは、まさにちょっと読めない将来に対してどう対応するかという発想だったと思うので、この視点もどこかに記載すべき。また地域のボトムアップ型の管理構想は必要だと思うが、 <u>国や県など広域的に見て計画的な対応が必要な管理の視点も重要</u> 。トップダウンの管理構想も必要だと考えている。（広田委員）
4	昨年度のとりまとめでは市町村の管理構想を提言していたが、そことの関係がよく分からない。 <u>市町村の管理構想と地域の管理構想との関係付けの説明はどこかで必要</u> 。誰も面倒が見れない土地について、見てみると悪影響で悪いことがたくさん書いてあるが、 <u>2018年の検討事項のように逆にポジティブな使い方をするのはこの管理構想の視点から外れるものなのかがわかりづらい</u> 。（一ノ瀬委員）
5	<u>地域管理構想と市町村の管理構想は、全てボトムアップにできれば望ましいが、それが難しい地域もあるので、市町村の管理構想からオーバーレイさせるという考え方もありうる</u> 。1章が管理構想という国が作るもので、市町村などがなく、2章がすつんと地域に落ちてしまっているのので、1章の3の管理構想に関する国・県、市町村、地域の関係及び役割というところをきっちり書き込んでおくと、地域ごとでまず考えてもらっただけけれども、地域を横断するものについては当然、それをまとめている市町村の管理構想の中でちゃんと把握してもらおうとか、コントロールあるいは調整してもらおうなどを書くべき。（中出委員長）
6	背景のところ、人口減少社会と地方圏の問題、一般的な背景というものが書かれているんですが、 <u>もう少しここがというようなターゲットを絞った背景事情というものを書くべき</u> （飯島委員）
7	ポジティブな面をどういう形で入れていくかということで、「これからの地域デザイン」のパンフレットのイメージだと思うが、この目次を見る限り、整合がとれていないように感じるためよく検討してほしい。（中村委員）
8	誰が何をモニタリングするのか評価基準は何かを明確にすることが大事であり、それによりはじめて計画見直しが可能になる。我々もこのところをまだ議論していないが、最低限を書き込まないと画餅になってしまう恐れがあるため検討をお願いしたい。（土屋委員）